

# InterSecVM/LBc V1.0

## Windows Azure向け セットアップ手順説明書

# ごあいさつ

このたびは、InterSecVM/LBc V1.0をお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。

本書は、お買い上げ頂いたセット内容の確認、セットアップ手順を中心に構成されています。本製品をお使いになる前に必ずお読みください。

## 法的情報

- Copyright © NEC Corporation 2013
- NEC、NECロゴは、日本およびその他の国における日本電気株式会社の商標および登録商標です。
- CLUSTERPRO® Xは日本電気株式会社の登録商標です。
- Windows、Windows Server 2003、Windows Server 2008、Windows Server 2012、Hyper-V、Windows 7、Windows 8、Windows XP、Windows Vista、Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Azure、Windows Power Shellは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標 または 商標です。
- Intelは、Intel Corporation の登録商標です。Linux®はLinusTorvalds氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- そのほかの会社名ならびに商標名は各社の商標または登録商標です。なお、本文中ではTMや®は明記していません。
- 本書の内容は、日本電気株式会社が開示している情報の全てが掲載されていない場合、または他の方法で開示された情報とは異なった表現をしている場合があります。また、予告なしに内容が変更または廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。本書の制作に際し、正確さを期するために万全の注意を払っておりますが、日本電気株式会社はこれらの情報の内容が正確であるかどうか、有用なものであるかどうか、確実なものであるかどうか等につきましては保証致しません。また、当社は皆様がこれらの情報を使用されたこと、もしくはご使用になれなかったことにより生じるいかなる損害についても責任を負うものではありません。本書のいかなる部分も、日本電気株式会社の書面による許可なく、いかなる形式または電子的、機械的、記録、その他のいかなる方法によってもコピー再現、または翻訳することはできません。

# 目次

1章	はじめに.....	5
1.1	動作環境.....	5
2章	事前準備.....	6
2.1	ストレージアカウントの作成.....	6
2.2	管理証明書の作成.....	9
2.3	管理証明書の確認.....	9
2.4	VHDファイルのアップロード.....	10
3章	仮想ネットワークの作成.....	12
3.1	仮想ネットワークの作成.....	12
4章	仮想マシンの作成.....	14
4.1	仮想マシンの作成.....	14
4.2	エンドポイントの設定.....	18
5章	InterSecVM/LBcの初期導入手順.....	25
5.1	初期導入設定.....	25
6章	注意事項.....	32

# 1章 はじめに

InterSecVM/LBc V1.0（以降、InterSecVM/LBcと記載）は、Windows Azure（以降、Azureと表記します）上で利用可能な仮想アプライアンス製品です。

仮想アプライアンスとは、オペレーティングシステムと必要なアプリケーションが事前にインストールされた仮想マシンです。

本書では、InterSecVM/LBcをAzure上にセットアップする手順について説明します。また、Azureサービスをご契約済みであり、Azure環境を利用可能である事が前提となっております。

**※重要：画面や手順が変更となる場合があります。また、Microsoft社のWebページなどから最新情報を確認し、Windows Azure関連ツールは最新版をご利用ください。**

下記サイト(英語)もご参照下さい。

<https://www.windowsazure.com/en-us/manage/linux/common-tasks/upload-a-vhd/>

## 1.1 動作環境

InterSecVM/LBcの仮想マシンは以下の諸元（インスタンスサイズ：M～XL）での利用をサポートしています。その他のインスタンスサイズはサポートしておりませんのでご注意ください。

リソース名	設定
CPU	2～8コア
メモリ	3.5～14GB
仮想ネットワークアダプタ	1アダプタ
ディスク	40GB

## 2章 事前準備

### 2.1 ストレージアカウントの作成

Azureコンソール上でストレージアカウントの作成を行います。既存のストレージアカウントを使用する場合、本手順は実施不要です。

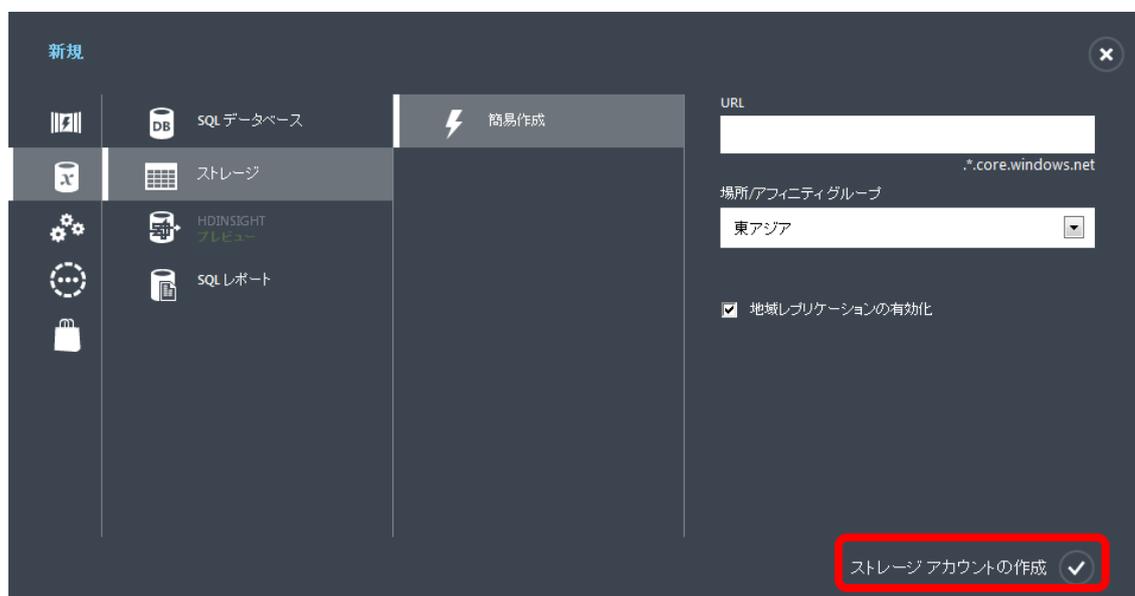
(1) Azureコンソールを開き、「+新規」をクリックします。

The screenshot shows the Azure portal interface. On the left, there is a navigation pane with categories like 'WEB サイト', '仮想マシン', 'モバイル サービス', 'クラウド サービス', 'SQL データベース', 'ストレージ', 'SQL レポート', 'SERVICE BUS', and 'ネットワーク'. The main area is titled 'すべてのアイテム' and contains a table of resources. At the bottom, a dark navigation bar features a '+ 新規' button, which is highlighted with a red box. Other icons in the bar include 'キーの管理' and '削除'.

名前	種類	状態	サブスクリプション	場所
intersec	ストレージ アカウント	✓ オンライン		東アジア
intersec-vnet	仮想ネットワーク	✓ 作成済み		intersec-affinity (東アジ..

## (2) ストレージアカウントの作成

「データサービス」→「ストレージ」→「簡易作成」をクリックします。  
URLにストレージアカウントの名前、場所/アフィニティグループから作成場所などを指定し、ストレージアカウントの作成  ボタンをクリックします。



## (3) ストレージアカウントの作成完了確認

状態がオンラインになれば作成完了です。  
作成したストレージアカウントの名前をクリックします。



#### (4) ストレージアカウントの情報確認

ストレージアカウントのダッシュボードから下記の情報を確認します。

※2.3でVHDファイルのアップロードを行う際に「BLOBのエンドポイント(FQDN)」の情報が必要となりますので、登録内容を控えてください。

The screenshot shows the Azure Storage Dashboard for a storage account named 'intersec'. The left sidebar contains navigation icons for Dashboard, Monitoring, Configuration, Containers, and other services. The main area displays the account name 'intersec' and navigation links for Dashboard, Monitoring, Configuration, and Containers. A monitoring graph area is currently disabled, with a message: '監視グラフが使用できません。構成ページで監視を有効にします。' (Monitoring graph cannot be used. Enable monitoring in the configuration page). Below the graph, the 'サービス' (Services) section is visible, showing a table with columns for 'サービス' (Service) and 'エンドポイント' (Endpoint). The 'BLOB' service is listed with the endpoint 'http://intersec.blob.core.windows.net/'. To the right, the '概要' (Summary) section shows the status as 'オンライン' (Online) and the replication type as '地域レプリケーション' (Geo-replication).

サービス	エンドポイント
BLOB	http://intersec.blob.core.windows.net/

**概要**

状態  
オンライン

地域レプリケーション

## 2.2 管理証明書の作成

<https://windows.azure.com/download/publishprofile.aspx>  
にアクセス (Windows Azureへのログインが必要です) して管理証明書をダウンロードしま  
す。

※ダウンロードした管理証明書は2.4で使用します。

## 2.3 管理証明書の確認

2.2で管理証明書のダウンロードを実行することで、Windows Azure上に管理証明書が登  
録されます。

Windows Azureの設定から管理証明書が登録されていることを確認します。

Azureコンソールを開き、設定をクリックします。

※2.4でVHDファイルのアップロードを行う際に「サブスクリプションID」、「サンプリ  
ント」の情報が必要となりますので、登録内容を控えておいてください。

クラウド サービス 0  
SQL データベース 0  
ストレージ 5  
SQL レポート 0  
SERVICE BUS 0  
ネットワーク 2  
メディア サービス 0  
ACTIVE DIRECTORY 0  
アドオン 0  
設定

### 設定

管理証明書 管理者 操作ログ アフィニティグループ

名前	状態	サブスクリプション	サブスクリプション...	サンプリント	有効期限 ↑
	✓ 作成済み				



(6) 以下のコマンドを実行し、VHDをアップロードします。（※VHDアップロードには時間が掛かります）

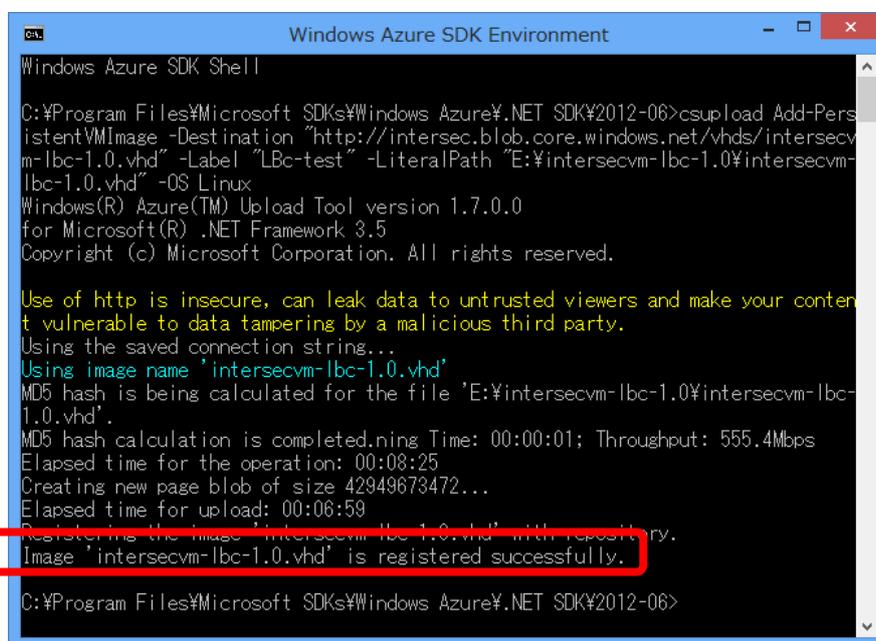
```
C:\>csupload Add-PersistentVMImage -Destination "http://blobのFQDN/vhds/vhdファイル名.vhd" -Label "ラベル名" -LiteralPath "ローカルのvhdファイルパス" -OS Linux
```

※blobのFQDNには2.1で確認した内容を指定します。

「vhdファイル名.vhd」の「vhdファイル名」、「ラベル名」は任意の値を指定してください。

ローカルのvhdファイルパスにはInterSecVM/LBc媒体の「intersecvm-lbc-1.0」ディレクトリにあるファイル「intersecvm-lbc-1.0.vhd」へのパスを指定します。

（例： E:\intersecvm-lbc-1.0\intersecvm-lbc-1.0.vhd）



```
Windows Azure SDK Environment
Windows Azure SDK Shell
C:\Program Files\Microsoft SDKs\Windows Azure\%.NET SDK\2012-06>csupload Add-PersistentVMImage -Destination "http://intersec.blob.core.windows.net/vhds/intersecvm-lbc-1.0.vhd" -Label "LBc-test" -LiteralPath "E:\intersecvm-lbc-1.0\intersecvm-lbc-1.0.vhd" -OS Linux
Windows(R) Azure(TM) Upload Tool version 1.7.0.0
for Microsoft(R) .NET Framework 3.5
Copyright (c) Microsoft Corporation. All rights reserved.

Use of http is insecure, can leak data to untrusted viewers and make your content vulnerable to data tampering by a malicious third party.
Using the saved connection string...
Using image name 'intersecvm-lbc-1.0.vhd'
MD5 hash is being calculated for the file 'E:\intersecvm-lbc-1.0\intersecvm-lbc-1.0.vhd'.
MD5 hash calculation is completed.ning Time: 00:00:01; Throughput: 555.4Mbps
Elapsed time for the operation: 00:08:25
Creating new page blob of size 42949673472...
Elapsed time for upload: 00:08:59
Registering the image 'intersecvm-lbc-1.0.vhd' with repository.
Image 'intersecvm-lbc-1.0.vhd' is registered successfully.
C:\Program Files\Microsoft SDKs\Windows Azure\%.NET SDK\2012-06>
```

最後の行に「Image ‘VHDファイル名’ is registered successfully.」と表示されれば、アップロード完了です。

## 3章 仮想ネットワークの作成

この章では、Azure上で仮想ネットワークを作成する手順について記述しています。InterSecVM/LBcは仮想ネットワーク上に配置する必要がありますので、既存の仮想ネットワークがない場合は必ず仮想ネットワークの作成を行なってください。既存の仮想ネットワークを使用する場合、本手順は実施不要です。

### 3.1 仮想ネットワークの作成

Azureコンソール上で仮想ネットワークの作成を行います。

(1) Azureコンソールを開き、「+新規」をクリックします。



(2) 「ネットワーク」→「仮想ネットワーク」→「カスタム作成」をクリックします。



(3) 「ネットワーク」→「仮想ネットワーク」→「カスタム作成」をクリックします。仮想ネットワークの詳細が表示されますので、画面の指示にしたがってお客様環境にあわせた情報を設定します。

右下の⊖をクリックすると次の画面に進みますので、順次情報を入力し仮想ネットワークを作成してください。

※LBを二重化構成とするためには、必ず仮想ネットワークで使用するDNSサーバとして Dynamic DNSに対応したDNSサーバを使用してください。

仮想ネットワークを作成する

### 仮想ネットワークの詳細

名前	地域
<input type="text"/>	東アジア
アフィニティグループ	アフィニティグループ名
新しいアフィニティグループの作成	<input type="text"/>

ネットワークプレビュー



## 4章 仮想マシンの作成

この章では、InterSecVM/LB仮想マシンを、Azure上で作成する手順について記述しています。

### 4.1 仮想マシンの作成

Azureコンソール上で仮想マシンへの作成を行います。

(1) Azureコンソールを開き、「+新規」をクリックします。



(2) 「コンピューティング」→「仮想マシン」→「ギャラリーから」をクリックします。



(3) 仮想マシンのオペレーティングシステムの選択

「マイイメージ」→（「2.3 VHDファイルのアップロード」でアップロードした）「vhd  
のファイル名」をクリック後、右下の⊖をクリックします。

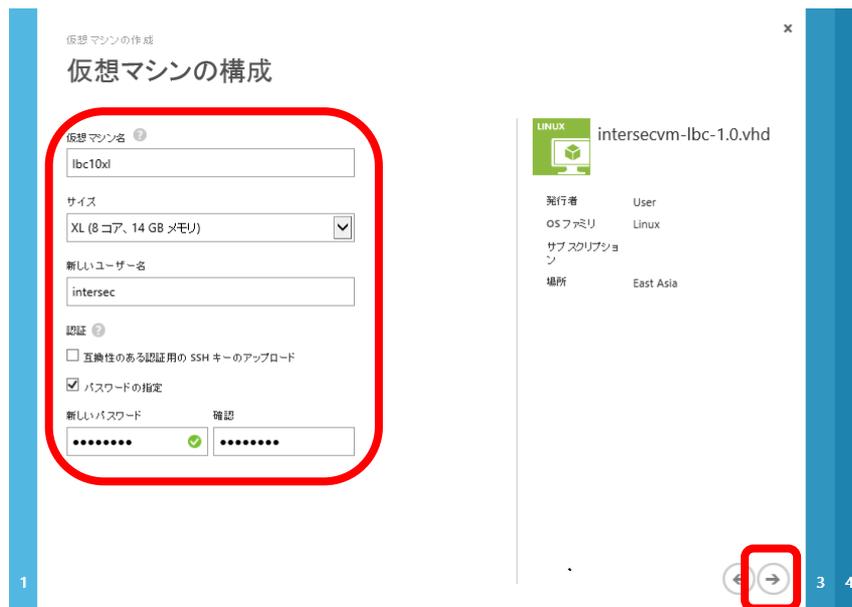


(4) 仮想マシンの構成

仮想マシン名などの情報を入力し、右下の⊖をクリックします。

※サイズには必ず「M(2コア、3.5GBメモリ)」「L(4コア、7GBメモリ)」「XL(8コア、14GBメモリ)」の何れかを指定してください。

※新しいユーザー名、パスワードは以降の手順で必要となりますので控えておいてください。



(5) 仮想マシンモード

「スタンドアロンの仮想マシン」を選択し、その他の情報を入力し、右下の⊞をクリックします。

※「地域/アフィニティグループ/仮想ネットワーク」には必ず**仮想ネットワーク**を指定してください。

※DNS名は以降の手順で必要となりますので控えておいてください。

仮想マシンの作成

## 仮想マシンモード

スタンドアロンの仮想マシン  
 既存の仮想マシンに接続します ?

DNS 名  
lbc10x1 .cloudapp.net

地域/アフィニティグループ/仮想ネットワーク ?  
intersec-vnet2

仮想ネットワーク サブネット  
Subnet-1(192.168.124.0/24)

intersecvm-lbc-1.0.vhd

発行者	User
OS ファミリー	Linux
サブスクリプション	
場所	East Asia

1 2 4

(6) 仮想マシンのオプション

仮想マシンのオプションを設定し、右下の☑をクリックすると仮想マシンの作成を開始します。



仮想マシンの作成が完了すると、管理コンソールの画面下にその旨が表示されますので、OK☑をクリックします。



## 4.2 エンドポイントの設定

Azureコンソール上で仮想マシンへの通信点であるエンドポイントの設定を行います。

(1) Azureコンソールを開き、「仮想マシン」をクリックします。



The screenshot displays the Azure portal interface for managing virtual machines. The left-hand navigation pane lists various services, with '仮想マシン' (Virtual Machines) highlighted by a red rectangular box. The main area is titled '仮想マシン' and shows a table of virtual machine instances.

名前	状態	サブスクリプション	場所	DNS名
dnssv3	✓ 実行中		intersec-affinity (東アジア)	dnssv4.cloudapp.net
lbc10xl	→ ✓ 実行中		intersec-affinity (東アジア)	lbc10xl.cloudapp.net

(2) 作成した仮想マシンが一覧に表示されており、かつ状態が「実行中」となっていることを確認してください。

「開始中(プロビジョニング)」などとなっている場合は「実行中」となるまでお待ちください。

「実行中」となりましたら、作成した仮想マシン名をクリックします。

The screenshot displays the Azure portal's '仮想マシン' (Virtual Machines) page. On the left, a navigation pane lists various services, with '仮想マシン' (13) selected. The main area shows a table of virtual machines. The table has columns for '名前' (Name), '状態' (Status), 'サブスクリプション' (Subscription), '場所' (Location), and 'DNS名' (DNS Name). Two rows are visible: 'dnssv3' and 'lbc10xl'. The 'lbc10xl' row is highlighted in blue, and both the name and the '実行中' (Running) status are enclosed in red boxes. The bottom toolbar contains icons for '新規' (New), '接続' (Connect), '再起動' (Restart), 'シャットダウン' (Shutdown), 'ディスクの接続' (Connect Disk), 'ディスクの切断' (Disconnect Disk), '取り込み' (Import), and '削除' (Delete).

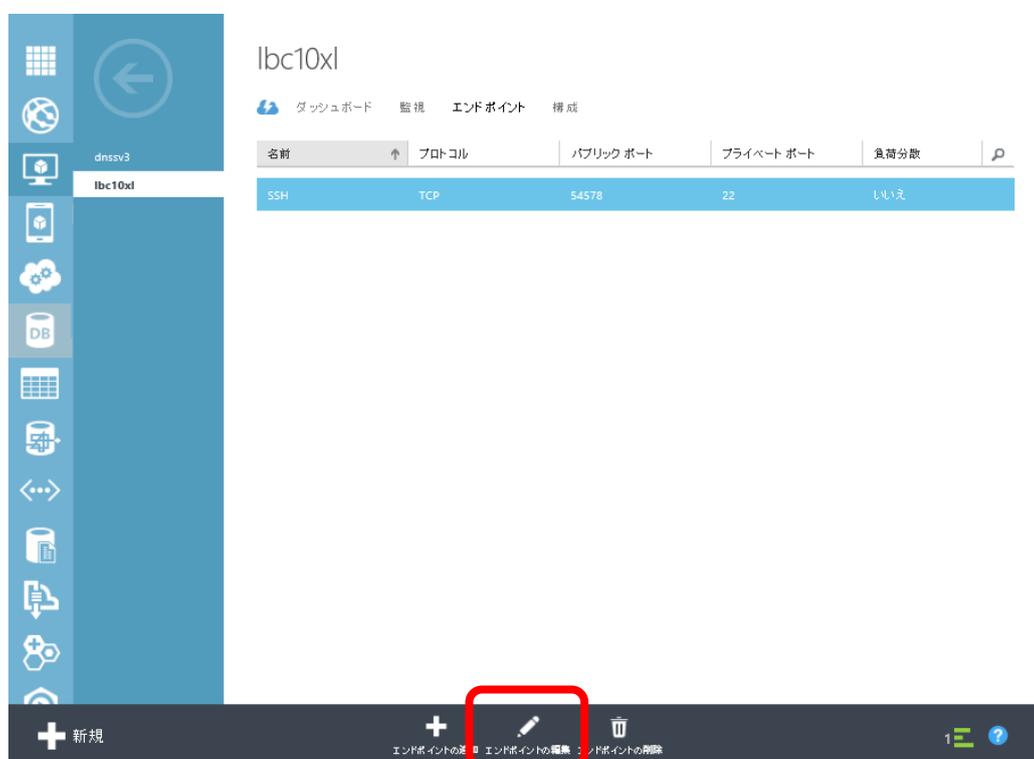
名前	状態	サブスクリプション	場所	DNS名
dnssv3	実行中		intersec-affinity (東アジア)	dnssv4.cloudapp.net
<b>lbc10xl</b>	<b>実行中</b>		intersec-affinity (東アジア)	lbc10xl.cloudapp.net

(3) 「エンドポイント」をクリックします。



(4) 既定でSSHのエンドポイントが作成されています。パブリックポート番号はランダム  
の番号が振られていますので、必要に応じ「エンドポイントの編集」をクリックし  
ます。

※以降の手順でSSHのパブリックポート番号が必要となりますので控えておいてくだ  
さい。



- (5) 「パブリックポート」欄を変更したいポート番号に書き換えた後、 ボタンをクリックします。

×

## エンドポイントの編集

名前

SSH

プロトコル

TCP

パブリックポート

50022

プライベートポート

22

負荷分散仮想マシン

(なし)

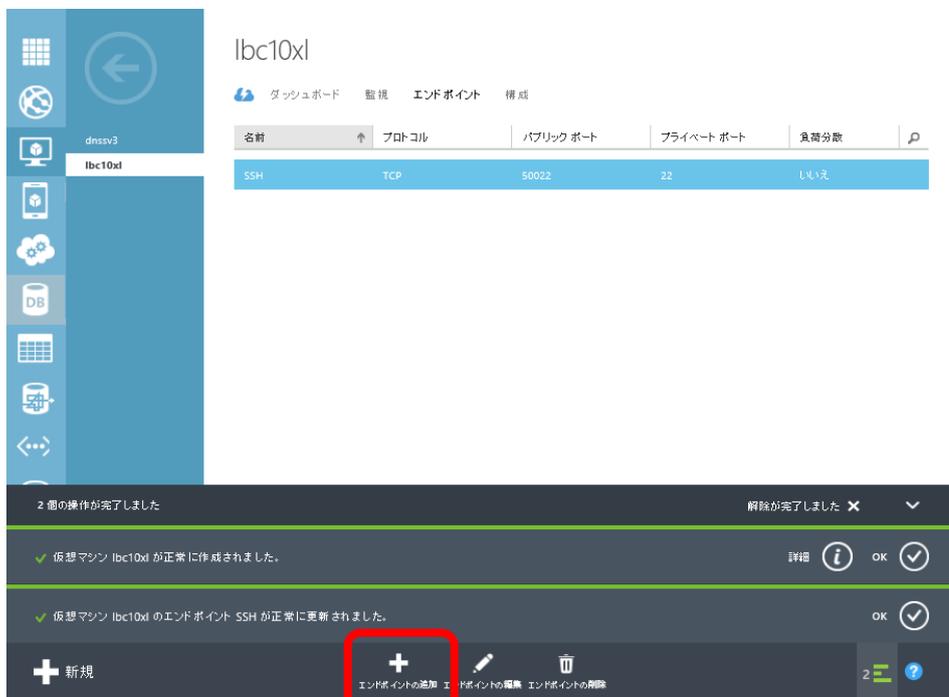


しばらくすると、エンドポイントの更新が完了しますので、OK  をクリックします。

✓ 仮想マシン lbc10xl のエンドポイント SSH が正常に更新されました。

OK 

- (6) Web based Management Console (WbMC) 用のエンドポイントを追加するため、「エンドポイントの追加」をクリックします。※InterSecVM/LBcのManagement Consoleへの接続を仮想ネットワーク内からのみしか行わない場合は、本手順は実施不要です。



- (7) 「エンドポイントの追加」を選択し右下の ➡ をクリックします。



(8) エンドポイントの詳細として以下の内容を指定し、右下の☑をクリックします。

項目	設定値
名前	WbMC
プロトコル	TCP
パブリックポート	50453
プライベートポート	50453

1

エンドポイントの追加 ×

## エンドポイントの詳細を指定します

名前

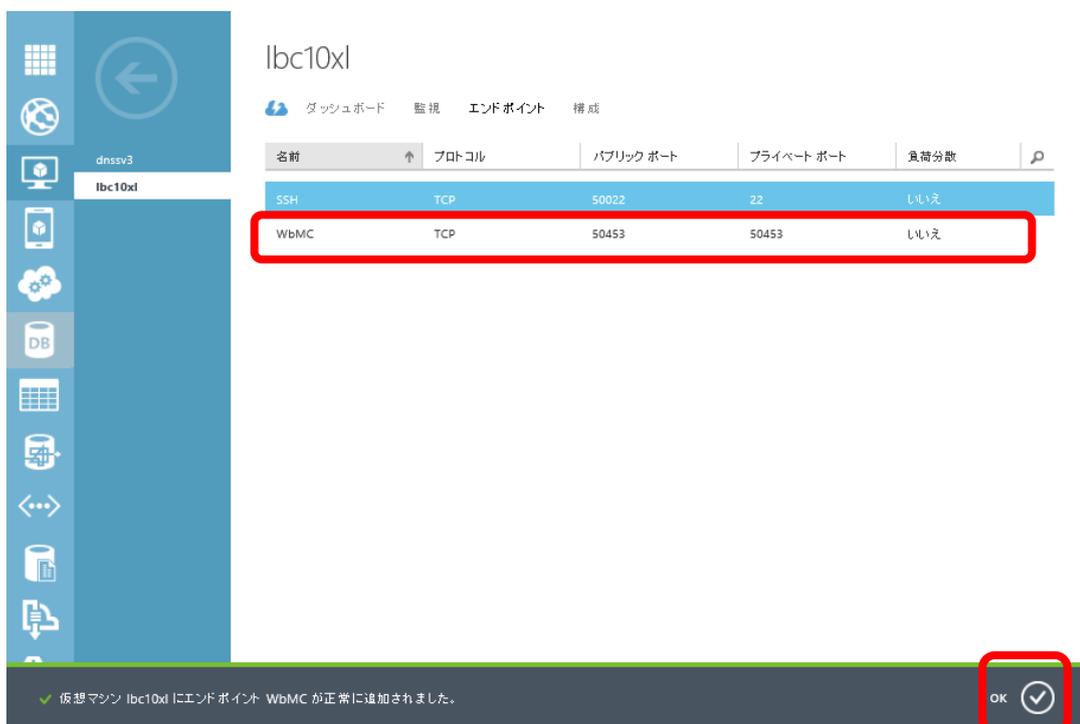
プロトコル

パブリック ポート

プライベート ポート

← ☑

- (9) しばらくして、エンドポイントの一覧にWbMCのエンドポイントが追加されたことを確認し、OKををクリックします。



- (10) CLUSTERPRO X の WebManager用のエンドポイントを追加するため、手順(6)～(9)の手順を繰り返します。※InterSecVM/LBcのCLUSTERPRO X WebManagerへの接続を仮想ネットワーク内からのみしか行わない場合は、本手順は実施不要です。

項目	設定値
名前	CLPX_WebManager
プロトコル	TCP
パブリックポート	29003
プライベートポート	29003

- (11) インターネットからの通信の負荷分散を行う場合、対象となる通信用のエンドポイントを追加するため、手順(6)～(9)の手順を繰り返します。負荷分散対象のプロトコル(TCPポート)の数分追加します。以下の例はhttpsプロトコル通信用の設定です。(※仮想ネットワーク内のみからのアクセスの場合は設定不要です)

項目	設定値
名前	https
プロトコル	TCP
パブリックポート	443
プライベートポート	443

以上でAzure上への仮想マシン作成手順は完了となります。  
引き続き5章の手順に従って、初期導入の設定を行って下さい。

## 5章 InterSecVM/LBcの初期導入手順

この章では、InterSecVM/LBc仮想マシンの初期導入手順について記述しています。

### 5.1 初期導入設定

InterSecVM/LBcのManagement Consoleに接続し、初期導入設定を行います。

(1) Webブラウザにて以下のURLを開きます。

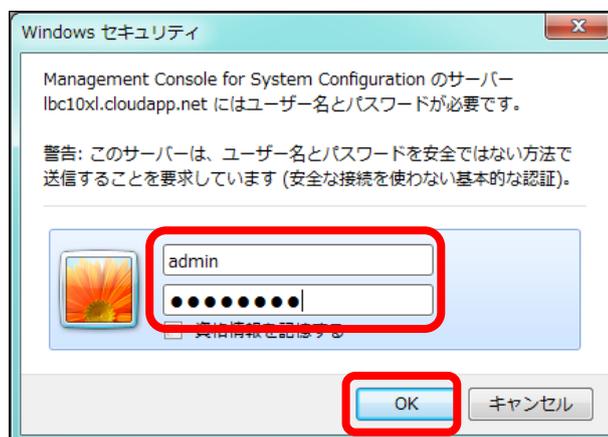
http://*4.1仮想マシンの作成で指定したDNS名*:50453/

※注意：

上記の「4.1仮想マシンの作成で指定したDNS名」には、仮想マシン名以降のドメイン名も含まれます。（例：lb-example.cloudapp.net）

(2) 認証画面が開きますので、ユーザー名とパスワードを入力し、[OK]をクリックします。

ユーザー名：admin  
パスワード：u2XkNsLb



- (3) ログインが成功すると以下の画面が表示されます。[開始] をクリックし、初期導入を実施します。

■初期設定

システムの初期設定をおこないます。

[開始]ボタンをクリックすると、初期設定を開始します。  
[中止]ボタンをクリックすると、初期設定を中止しシステムをシャットダウンします。

中止 開始

メモ：初期設定を中断したい場合は、各設定画面の [中止] をクリックします。

- (4) 本体の時刻に関する設定を行います。システム時刻を入力し[次へ]をクリックします。

■システム時刻設定

システム時刻を設定します。  
[次へ]ボタンをクリックすると入力された時刻を適用します。

システム時刻: 2013 年 4 月 18 日 20 時 55 分 27 秒

中止 前へ 次へ

- (5) InterSecVM/LBcの製品ライセンスの登録を行います。ライセンスをご購入頂いた場合、『InterSecVM/LBc 製品ライセンス ライセンスシート』の「ライセンス認証番号」を入力し[次へ]をクリックします。

■ライセンスの登録

ライセンスを登録します。  
[次へ]ボタンをクリックするとライセンス登録を行います。

※ ライセンスを登録しない場合、試用期間としてご利用いただけます。  
※ 試用期間終了後は、サービスが停止されます。  
※ 試用期間終了後の継続ご利用は、ライセンスを登録してください。  
※ ライセンス登録は、初期設定完了後はシステム管理者ManagementConsole画面から行えます。

ライセンス: [ ] - [ ] - [ ] - [ ] - [ ] - [ ]

中止 前へ 次へ

メモ：ライセンス入力を省略した場合は、30日間の試用ライセンスになります。  
試用期間経過後は、InterSecVM/LBcの主要サービスが停止し、ご利用いただけなくなります。

- (6) システム管理者のパスワードの設定を行います。  
システム管理者のアカウントは“admin”（固定）です。  
システム管理者用のパスワードを「パスワード」「パスワード再入力」に入力して  
[次へ] をクリックします。システム管理者名のパスワードの指定は必須です。

■システム管理者設定

システム管理者のパスワードを設定します。

システム管理者は、システム管理者ManagementConsoleへのログインアカウントとなります。  
システム管理者のパスワードを入力してください。  
\*の付いている項目は、必須入力です。

システム管理者名:	admin
*パスワード:	●●●●●●
*パスワード再入力:	●●●●●●

中止 前へ 次へ

メモ：システム管理者のアカウントは、初期導入完了後システム管理者Management Console画面で変更できます。

- (7) お客様の運用ネットワークに合わせたネットワーク情報の設定を行います。  
「ホスト名 (FQDN)」にセカンドレベル以上のドメイン名を含むホスト名（「4.1 仮想マシンの作成」で指定したDNS名）を入力してください。（例：lb-example.cloudapp.net）  
※ ホスト名以外のネットワーク情報（IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバ）はDHCPサーバにより自動で割り当てられます。

■ネットワーク設定

システムのネットワーク基本情報を設定します。

\*の付いている項目は、必須入力です。

*ホスト名(FQDN):	
--------------	--

中止 前へ 次へ

(8) 入力した設定内容を確認します。

設定内容に間違いがなければ、[次へ] をクリックしてください。

設定内容を変更する場合は、[前へ] をクリックして変更対象画面に戻り設定を修正してください。

**■初期設定内容確認**

初期設定の内容を確認してください。

以下の設定でよろしければ、[次へ]ボタンをクリックしてください。設定をおこないます。  
[中止]ボタンをクリックすると、初期設定を中止しシステムをシャットダウンします。

■システム時刻設定	
■ライセンスの登録	
ライセンス:	ライセンスは未登録です
■システム管理者設定	
管理者名:	admin
パスワード:	*
■ネットワーク設定	
ホスト名(FQDN):	lbc10xl.cloudapp.net

中止 前へ **次へ**

(9) 設定を有効にしてシステムを運用可能な状態にするため、システムを再起動します。

[システムを再起動する] をクリックした場合、システムの再起動を行います。

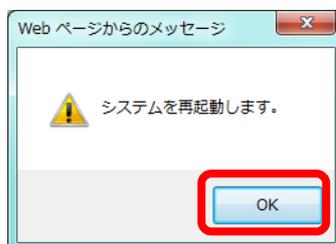
[システムを停止する] をクリックした場合、システムは停止状態となりますので、再度起動(パワーオン)を行ってください。

**■システム再起動**

初期設定を完了しました。  
設定を有効にするために、システムを再起動してください。

システムを停止する **システムを再起動する**

(10) [OK] をクリックし、システムを再起動します。

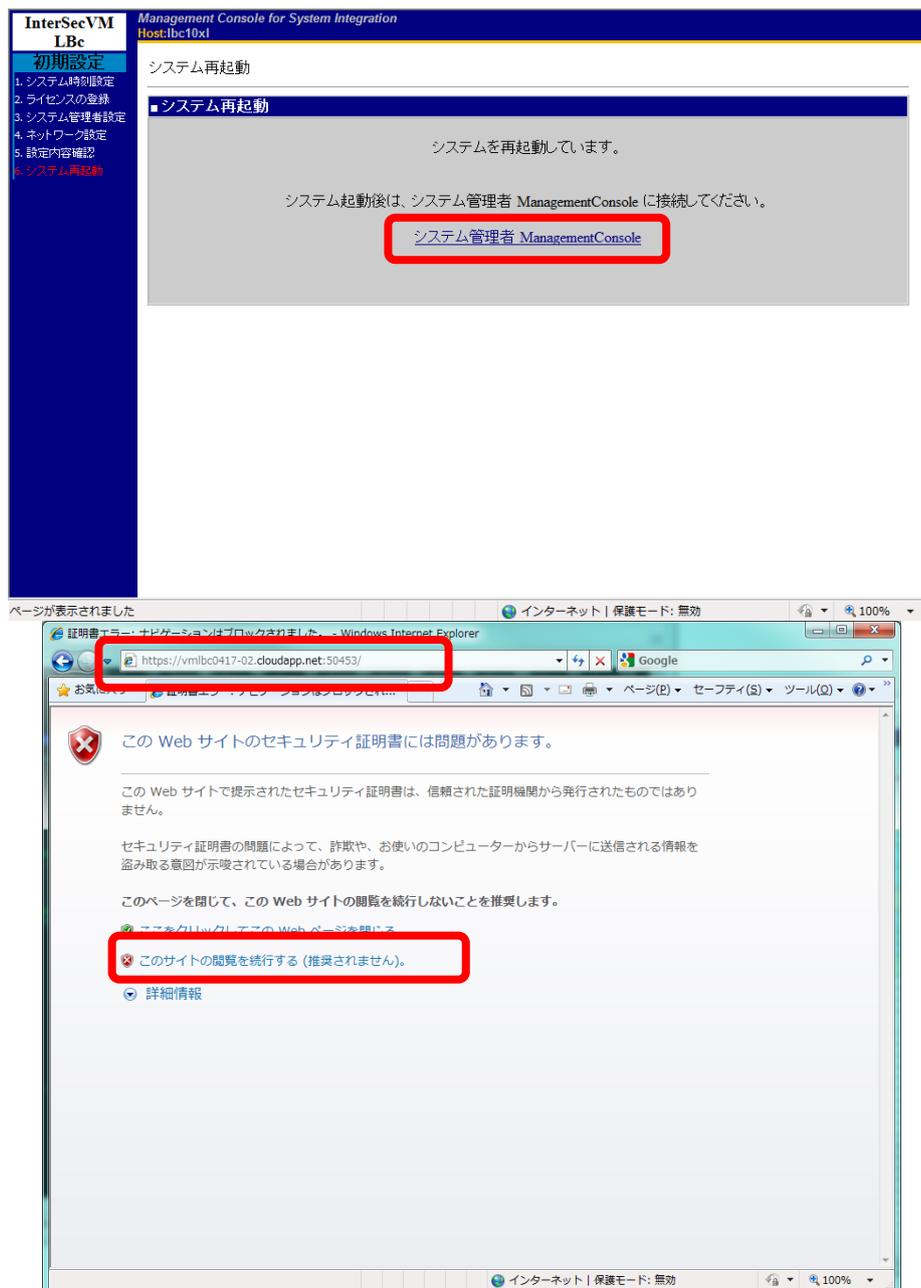


- (11) 再起動完了後、再起動画面の「システム管理者 ManagementConsole」のリンクをクリックする、または以下のURLを開くことによりManagement Consoleに接続します。

https://4.1仮想マシンの作成で指定したDNS名:50453/

※注意：

上記の「4.1仮想マシンの作成で指定したDNS名」には、仮想マシン名以降のドメイン名も含まれます。（例：lb-example.cloudapp.net）

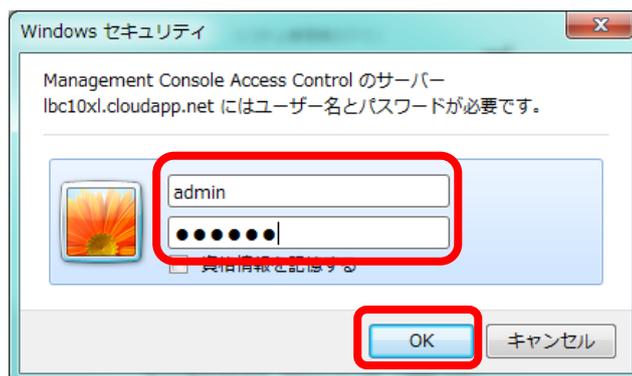


メモ：セキュリティ証明書の警告が表示されますので、「このサイトの閲覧を続行する」をクリックしてください。

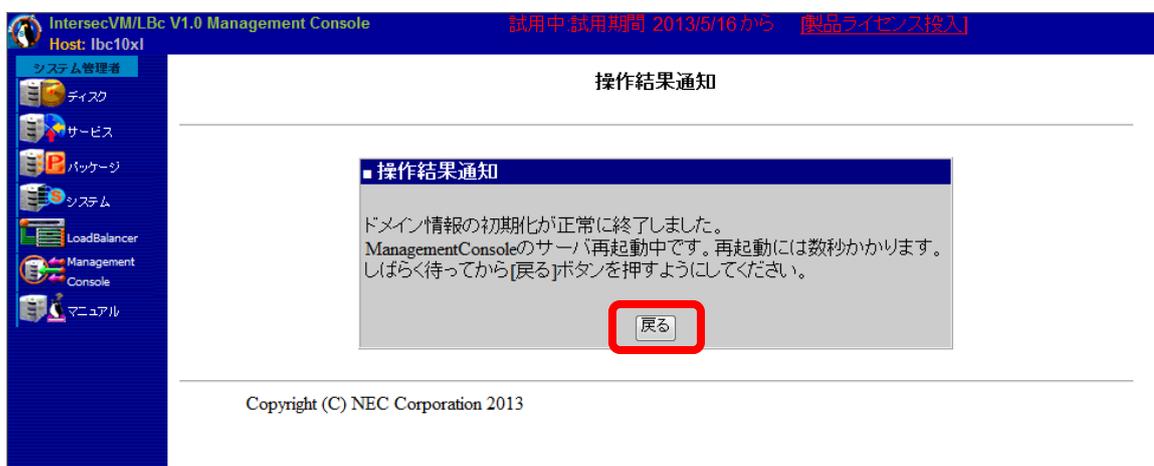
- (12) Management Consoleのログイン画面が表示されますので、「システム管理者ログイン」をクリックします。



- (13) ユーザー名にはadmin、パスワードには(6)でLB管理者(admin)アカウントに設定したパスワードを入力し、[OK]をクリックします。



(14) 「操作結果通知」画面が表示されます。しばらく待ってから[戻る]をクリックします。



(15) 初期導入が正しく完了していれば、Management Console画面が表示されます。LBを単体構成でご利用の場合は、引き続き、負荷分散設定を行ってください。LBを二重化構成でご利用の場合は、先にクラスタの構築を行った後、負荷分散設定を行ってください。



※クラスタの構築手順については、『InterSecVM/LBc V1.0 Windows Azure向け 二重化構成構築手順書』をご参照ください。

『InterSecVM/LBc V1.0 Windows Azure向け 二重化構成構築手順書』  
¥doc¥vmLBc10¥vmlbc10az\_cluster.pdf

## 6章 注意事項

1. 本書に記載の画面や手順は予告なく変更となる場合があります。
2. InterSecVM/LBcの仮想マシンのインスタンスサイズは、M~XLのみサポートしています。その他のインスタンスサイズはサポートしていません。
3. InterSecVM/LBcを二重化構成とするためには、必ず仮想ネットワークで使用するDNSサーバとしてDynamic DNSに対応したDNSサーバを使用してください。
4. InterSecVM/LBcの二重化構成時、仮想ネットワークのDNSサーバとしてActive DirectoryのドメインコントローラをDNSサーバとして動的更新機能を使用する場合、「セキュリティで保護された動的更新機能」はご使用いただけません。このため、「セキュリティで保護された動的更新機能」は使用しないようご注意ください。

InterSecVM/LBc V1.0  
Windows Azure向け  
セットアップ手順説明書

2013年 5月第 1版

日 本 電 気 株 式 会 社  
東京都港区芝五丁目7番1号  
TEL (03) 3454-1111 (大代表)

© NEC Corporation 2013

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。